

ご 案 内

《「教育分析personal-analysis」をお求めの臨床家諸氏へ》

■分析技法および基本原則：夢の記憶材料および日常的想念を基軸としながら、被分析者の内なる‘自己生成過程’の展開を援助することが狙いです。この趣旨において、対人援助の心理臨床に携わる専門職の方々を対象とした「教育分析」は、一般の方々を対象とした「精神分析治療」となんなら違いはありません。さらには、いかなる意味でも将来何らかの資格あるいは職業的地位を約束するものではありません。

■被分析者の適性条件：分析は「自分がいかにして自分なのか」への洞察を主眼とし、言葉を媒体として己の経験を咀嚼しかつ筋立てる作業でありますから、言語操作能力はそれ相応に期待されます。究極には、臨床場における対象の‘自らを語れない・聴けない’困難にいかに共感し堪え、さらにはそれらの超克をめざしてどこまで挑戦できるか、即ち‘心の専門家’としての自恃が希求されます。（尚、分析セッションは寝椅子を利用したの背面方式となります。）

■分析の回数および期間：セッションの回数は週一回がまずは適切かと思われませんが、各々の事情にかんがみ、それ以上の回数のご要望があれば承ります。尚、どのぐらいの期間お続けなさるかは、分析の遂行上特に支障ない限りにおいて、被分析者各々の判断に適宜任せられております。つまりはまったくご自由にお考えくださって結構なのです。

■セッションのお休み：季節ごと年に5回（総計7週間）予定されております。セッションは、それらを除いて、毎週継続され（祭日でも）、キャンセルの場合でも料金は課されます。

■『保証人』：被分析者の緊急時（不慮の事故等の際）、代理として当方へ確実にご連絡下さる方として、契約に当たり、どなたかご一名承りますのでご注意ください。

■契約の際の心得：「教育分析」を臨床実践上の‘即戦力’として期待することには、まず無理がありましょう。さらには、研究発表・論文作成など臨床家としての実績づくりに直接寄与するものでもありません。それが、なにがしかの意味を生むとすれば、それは究極には、自らを主体的存在として自覚し、自分の在り方を自分で選びとろうとする実存的情熱が決め手にならうかと予想されます。

（尚、『予備面接』の規定料金は、一回につき¥20,000円です。）

§「山上千鶴子(やまがみちずこ)」プロフィール§

<経歴>

■1971.3. 京都大学大学院教育学部修士課程臨床心理コース修了

■1973.10. 渡英の翌年、The Tavistock Clinic (タヴィストック・クリニック)、Training Course of Psycho-analytical Psychotherapy with Children, Parents & Young People (The Tavistock Centre, London) に、日本人として初めて a full-time trainee として入学を許可される。(このトレーニング機関は、故メラニー・クラインに直接指導を受けた、或いはその流れを汲むところの分析家グループが指導陣を占めており、歴史的に「クライン精神分析学派」発展の揺籃的役割を為して来た。)

6年間の在籍中、故Dr. Donald Meltzer(メルツァー)率いる英国でも最もラディカルと見做される分析家グループに帰属し、特には故Miss. D. Weddell との5年に亙る教育分析(週5回セッション)をも含めて、それぞれの諸氏より親しく薫陶を受け、『精神分析的療法家』としての規律を培う。

■Pre-clinical Period of the training の概要: Infants Observation Seminar(乳児観察セミナー), Work Discussion Seminar, Reading Seminars 及び Lectures に参加。臨床活動に入る前段階として、様々のセッティングにおける Work Experiences が奨励された。この時期、それらの経験から得られた Observation-materials (観察記録)にコメントされるスーパーヴァイザーのフィード・バックを通して、基礎的な the Kleinian way of Understanding (クライン流儀の人間理解) が次第に Trainees に感得されてゆくことが狙いとされていたと推察される。具体的に携わった経験としては、養護施設 "The Hollis" にて Assistant Houseparent として1年程勤務。それ以降は、フリーのオブザーバー(観察者)として、Thomas Coram Infants School, St. John's Church Play-Group, St. Thomas Day Hospital, Camden District Day Care Centre for the Deprived Children の各施設において、毎週1~2回の定期的訪問をとおして、こどもの自然遊戯観察をそれぞれ半年から2年に亙って、継続した。この間それらの経験と並行し、ある特定の子どもの誕生以降2才までの2年間で、毎週1回の家庭訪問をとおして、観察してゆくことが必修課題として与えられていた。それら課題についてタヴィストックでの各セミナーでグループ指導を受ける他に、Work-experience については、Mrs. Margaret Rustin (Senior Psychotherapist, Tavistock Clinic) に、更に Young Children Observation (幼児遊戯観察)については Miss. Kate Paule (Senior Psychotherapist, Tavistock Clinic) に Private Supervision (個別スーパービジョン)を

それぞれ1年余程の期間受ける。

■Clinical Work for the training の概要: Clinical Seminars(症例研究セミナー)、Work with Parents Seminar、Young People's Counseling Seminar、Reading Seminars及び Lectures に参加。具体的な臨床体験としては、St. George's Hospital,Department of Child Psychiatry (セント・ジョージ病院・児童精神科外来)においてMr.John Bremner (クライン派の Chief Psychoterapist) の監督指導下で、又The Tavistock Clinic, Department of Children & Parents においては、 Mrs.M.Rustin の監督指導の下に、Child Psychoterapist Trainee として勤務。対象年齢3～16才に及ぶ数多くのサイコセラピー・ケースを担当し、それらの実績をとおして、セラピストとしての資質について高い評価を得る。

■Training Cases の概要: トレーニング・ケースとして3症例、幼児期、学童期、青年期それぞれのintensive-cases(3～5times weekly sessions)が必須とされた。タビストック内部でまずMrs.Martha Harris,そしてMrs.Shirly Hoxter のお二人の指導教官に師事し、更には3番目の症例について規定とされたタヴィストック外部の人間としてDr. Donald Meltzer(Institute of Psychoanalysis Lecture)に師事し、治療経過中それぞれの師から個別スーパービジョンを毎週1回定期的に受けながら、各症例をほぼ成功的に終結する。

■1979.9. Tavistock Centreにおけるトレーニング・コース全課程を修了。

British Association of Child Psychotherapists の正会員に認定。

同じ頃、4年余在職したセント・ジョージ病院・児童精神科外来を退職する。

■1980.2. 帰国後、東京・原宿で個人開業をスタート。クライン・メルツァーの系譜に列なる者として、さらにはW.R.Bion (ビオン)の思想的遺産を継承発展することを念願としつつも、日本での『精神分析』の土着化の行く末を視野に置きながら、専ら青年・中年層を対象とした臨床活動の傍ら、後進の育成指導に当たり、現在に至る。

<所属団体>:

・『日本精神分析学会』 ・『日本心理臨床学会』

<主要参考図書>:

・『入門 メルツァーの精神分析論考』 岩崎学術出版社 2005

・『現代のエスプリ』別冊 『精神分析の現在』 至文堂 1995

・『児童分析の記録 I & II』メラニー・クライン著作集6&7 誠信書房 1987&1988